

B BOOKS

久原正治

立命館アジア太平洋大学教授

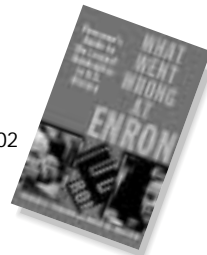
エンロンとは何か

エンロンに関する本が出揃ってきた。まだ出ると思うが、この辺で目を通した洋書の特徴をあげてみたい。アマゾンで簡単に手に入るので、お好みのものを一手に取っていただきたい。和書については店頭で類書が並んでいる。その多くが、株式会社「危機」などと称しているが、米国でなぜエンロンのような会社が次々とイノベーションの担い手として生じてくるのかという問題の本質を捉えていないように思える。その中で一冊だけお勧めしたい。

米国はノンフィクションの国だ。企業経営者であれ政治家であれよくメモを取り、企業内の意思決定にかかわる文書記録が豊富だ。このような記録と関係者への聞き取りによってさまざまな出来事をその場にいたように再現し、ジャーナリストや内部者による臨場感あふれる作品が出てくる。中でも金融分野はそこで得られる富が大きく、また転落との落差も大きいため格好のストーリーを提供する。スキャンダルの発生は景気の波と並行し、規制緩和 景気拡大 経営者の貪欲発揮、イノベーション（ 景気転換 スキャンダルの表面

化 大衆のポピュリズム高揚 当局の摘発 政府の規制強化の波が繰り返し続く。

八〇年代後半からの軍事技術の金融技術への転用を期とする金融革命とそのマニファイの応用、そこ



Enron 1986-2001
Bodily & Bruner
Darden School, University of Virginia, 2002

What went wrong at Enron
Fusaro & Miller
John Wiley & Sons Inc. 2002

Anatomy of Greed
-The unshredded Truth from an Enron Insider-
Brian Cruver
Carrol & Graf, 2002

Pipe Dreamers
-Greed, Ego and the Death of Enron-
Robert Bryce
Public Affairs, 2002

Enron
-The Rise and Fall-
Loren Fox
John Weill & Sons Inc. 2003

検証 エンロン破綻
山家公男、西村陽
日本電気協会新聞部、2002年6月



速く自ら市場を創造し支配し、価格のゆがみや恣意的な会計処理により過大な利益を獲得する。このような革新的な金融技術をエネルギー市場に応用したのがエンロンであった。イノベーションと不正との紙一重のこ

るで、アメリカの金融イノベーターはこの境界での利益があまりにも大きいのでこのリスクを喜んで取る。八〇年代の終わりには犯罪者として収監されたマイケル・ミルケンも出獄後はジャンク債のイノベーターとして歴

史的な評価を取り戻した。をアマゾンに注文したらCD ROMが送られてきた。これがお勧めのビジネススクール教材だ。会社設立以降イノベーションのリーダーとしてのエンロンと二〇〇一年の崩壊の二

部に分かれ、CEOや経営幹部がビジョンを語るビデオやさまざまな図表、文書、主たる登場人物の顔写真などを縦横にみることが出来る。

は早い段階にエンロンの歴史と事件を分かりやすく解説したもので、先この翻訳が出版された。全体の流れを振り返るのに良い。はお決まりの内部者の記録だが、MBAを出てたまたまエンロン崩壊の年に入社し崩壊で失業した著者が、同僚などから聞き取り出版した。失業をチャンスと考えるところはさすがに聡いが分析は浅い。は、熟練のジャーナリストがCFOのファストウを始めとする登場人物の貪欲さや自己利益の追求を余すことなく描き、革新的な企業特有の文化が手に取るようにわかる推薦できる書だ。はビジネス誌記者の手になる調査レポートで、なぜ革新的な企業や会計事務所が一线を越えたのか掘り下げて分析している。最後に和書だが、はエンロンビジネスモデルとエネルギー政策の観点からまとめた専門家のレポートで、その革新的なビジネスモデルのどこに問題があったのか、日本が米国に何でも学ぶとどういふことになるかを考えるのに良書である。